

出雲大社・足立美術館・山陰の名湯を巡る旅



(足立美術館庭園)

都会の喧噪に疲れた心とからだに、ひとときの休息をあげませんか？ほっこりとできる日本旅館を二つ並べて山陰の旅を企画しました。一泊目は吉永小百合「夢千代日記」の舞台となった兵庫県の湯村温泉「佳泉郷 井つつや」です。二泊目は、実は弊庫小池理事長も推薦する島根県の玉造温泉です。宿は「佳翠苑 皆美」を選択しました。きつとごゆっくりできますよ。

第1日目

行程	羽田空港⇒鳥取砂丘コナン空港⇒昼食/「花のれん」または「海陽亭」⇒わらべ館⇒
	鳥取砂丘・砂の美術館⇒湯村温泉「佳泉郷 井づつや」(宿泊)

【 羽田空港⇒鳥取砂丘コナン空港 】 (鳥取県鳥取市湖山町西)



(鳥取空港の全日本空輸 ボーイング737-800)

鳥取県の鳥取砂丘コナン空港を目指します。全日本空輸295便、9時15分発、鳥取空港10時35分着ですから所要時間1時間20分。正味の飛行時間は一時間程度です。

お客様の集合はご出発の1時間前ですから8時15分頃になります。使用機材はおなじみのボーイング737-800になる予定です。-800型は新しい主翼の採用、燃料積載量の増加、空力特性の改善等大幅な改善が行われた安定した機体です。

空港を出てバスに落ち着くと、そろそろお昼の時間です。初日は早く家を出ていらっやっています

から先ずは腹ごしらえから参りましょう。

【 ホテル ニューオオタニ 鳥取 】 昼食 (鳥取県鳥取市今町)

※9/20 出発班、9/25 出発班、10/25 出発班は昼食場所はホテルモナーク鳥取となります。



鳥取駅前徒歩3分の直近に、ホテル ニューオオタニがあります。鳥取や島根県は洋食料理がとても少ないエリアで、探して探してニューオオタニに行き当たりました。



「山陰まで来て和食は食べないの？」はい、誠にその通りなのですが和食はこれから沢山食べられます。

都市部にいるうちに洋食を食べておきましょう。洋食に強いニューオオタニさんでもありますし。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

【 わらべ館 】(鳥取県鳥取市西町)



「わらべ館」は鳥取県と鳥取市が共同で運営する公益財団法人で、童謡館(1階)とおもちゃ館(2、3階)があります。入り口が少し重々しい建物です。「どうして？」と何うと鳥取市図書館として使われていたからとのお話でした。



童謡館の中に入っていくと、教室が有り、矢絣の着物に袴を着た先生に唱歌を習うことになります。そろばんも五つ玉ですし、尋常小学校を忠実に再現しているのです。どなたもご存じの歌ばかりですから是非大きな声で歌ってみて下さい。子供の頃を思い出します。

先生、と一緒に歌って頂いて有り難うございました。



4オクターブの足踏み式オルガンで伴奏してくれます。そうそう、こういうオルガンがどこの小学校にもありました。懐かしい音がします。



2階3階のおもちゃ館では様々な種類のおもちゃや人形が展示されています。写真の人形は、世界各国にある人形館と人形の親善交換を行ったものだそうです。私の投げたコマを下敷きに乗せてくれたのは鳥取童謡・おもちゃ館理事長、わらべ館館長の国森様です。



外壁に SEIKO 製のからくり時計があります。昼間の正時から4分ほど反転してオルゴールが奏でられますから、お待ちになってご覧下さい。セイコー社のからくり時計は初めて見ました。

スイスのもののように歴史はありませんが、綺麗できらきらしており、メイド・イン・ジャパンが感じられます。

【 鳥取砂丘・砂の美術館 】 (鳥取県鳥取市福部町湯山)

《 砂丘 》



鳥取砂丘では、先ず「砂丘センター」のある高台に上がり展望室から砂丘全体をご覧頂きます。写真の建物はリフトの駅です。



リフトは慣れないとちょっと恐いかもしれません。ご希望の方はご利用できます。東京シティの旅行バッチを付

けている方は無料です。速度は超低速にも停止にも切り替わりますから上手く乗れない場合も対応出来ます。



砂丘の馬の背と呼ばれる部分です。大きすぎて遠近感が全く分かりませんが、人がごま粒のように見えますから大変に距離があることが分ります。来るときと同様、リフトで戻ることができます。

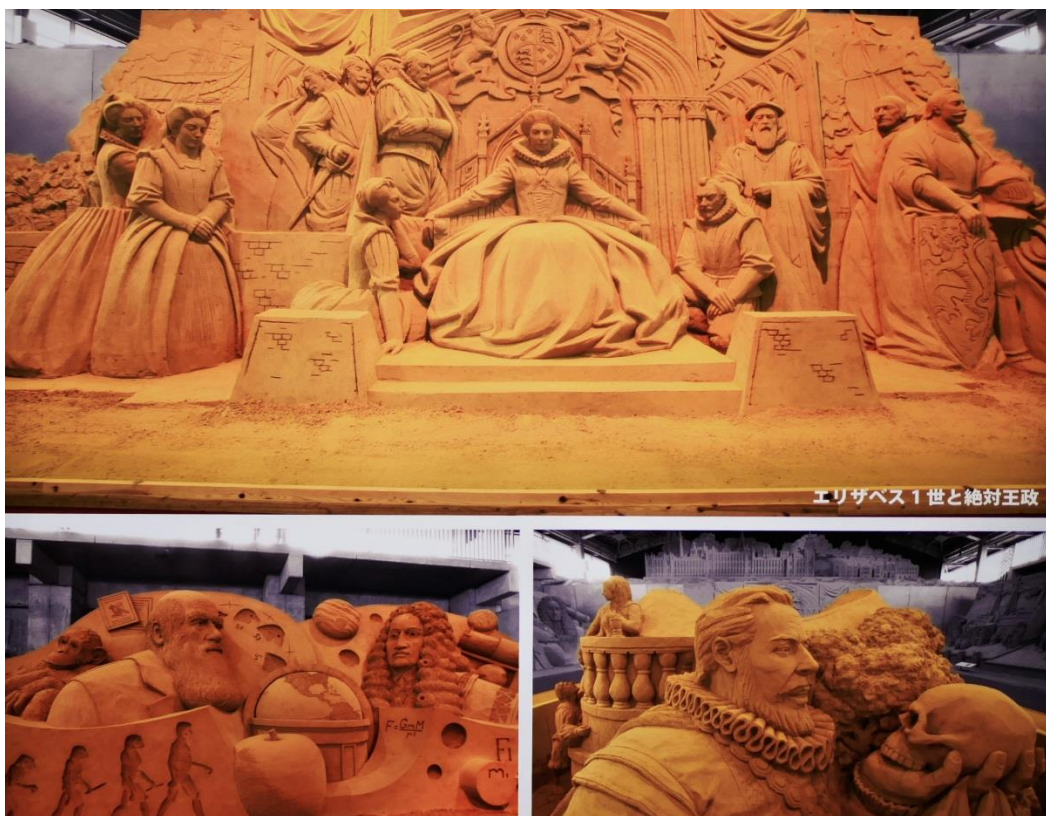


砂丘の名物はらっきょうです。沢山の味付けの種類があります。目移りしますからこういう味が好きだと相談すると選んでくれます。

《 砂の美術館 》



札幌の雪祭りの雪像が砂で作られていると言ったら当たらずとも遠からずだと思います。砂だとすぐ崩れてしまうのでは？と心配になりますが、多分水分をコントロールして形を留めているのでしょう。砂とは思えない存在感です。調査時は製作期間中で実物を見るできませんでした。その為、



展示されていた昨年の製作例の写真です。これが砂で作られているのかと驚きます。それもそのはず、



製作しているのは世界各国から集まった彫刻家達です。泥だらけですが楽しそうですね。みんなの顔が「どんなもんだい！」と誇らしげです。見る価値があります。

【 湯村温泉 「佳泉郷 井づつや」 】 (兵庫県美方郡新温泉町湯)



一泊目の宿、「佳泉郷 井づつや」の正面玄関です。鳥取から入りますが兵庫県の宿です。湯村温泉と言え

ば吉永小百合のドラマ「夢千代日記」の舞台となった温泉地です。

井つつや
ぶらり散策MAP

モデルコース付き
湯村温泉が
10倍楽しくなる!

荒湯門 (大浴場前より) 徒歩1分

温泉施設 お手洗い 食事処 歩道
街角ギャラリー/アースポット 体験 見どころ

1 湯村温泉観光協会
2 夢千代館
3 杜氏館
4 夢千代像
5 ふれあい手形散歩道
6 正福寺
7 薬師湯
8 薬師堂
9 足湯
10 荒湯
11 清正公園の夢文字イリュージョン&光のファンタジー

まだあります
みどころスポット

ゆむら屋おほかふえ

湯村温泉には井つつやさんの裏側出口「荒湯門」から出かける散策コースがあります。履き物も用意されていますから、フロントでこの地図をもらって廻って下さい。



春来川に出ると足湯が続いています。その先が散策マップ 10 番の湯村温泉源泉の一つ「荒湯」です。温泉客がのんびり腰掛けていて、いかにも温泉街の風情がします。



荒湯の発見者慈覚大師の像があります。「お湯かけ大師」と言われ、このようにみなでお湯をかけたり茶碗についであげたりしてなかなかの人気です。慈覚大師圓仁(じかくだいしえんにん)は命をかけて唐に渡った入唐八家の一人、天台宗の高僧です。と言となじみが無いかもしれませんが、元々は栃木の人で、興したお寺が500以上、山形の立石寺、平泉の中尊寺、松島の瑞巖寺と東国にも沢山あります。857年天安元年には浅草の浅草寺に現れ当時秘仏で公開されない観音様の前に「お前立ち」の観音像を作って人々の信仰の対象とし、現在の浅草の繁栄の基礎を作ったビジネスモデル作成の達人と言え、東京圏の住人としても親しみを感ずります。

お土産店や喫茶店等を抜けて右の森下橋を渡って対岸へ向かいます。



散策マップ4番の「夢千代像」です写真右下に一つだけ見えるのが散策マップ5番「ふれあい手形」の一部もっと右側に吉永小百合さんの手形もあります。夢千代像は吉永小百合さんの面影がちゃんとありますね。画面右後ろにある旅館の一番高いところにある建物が出発した宿です。

夢千代像から右に曲がり、今度は春来川の対岸を井づつやさんを右に見ながら歩きます。



杜氏館、湯村温泉観光協会を左に見て進むと右側に散策マップ2番の「夢千代館」があります。



「夢千代日記」に使ったセットや衣装、小道具等を見ることができます。有料です。



夢千代橋を渡ると、散策マップ7番の「薬師湯」があります。この温泉は地元の方達用の温泉ですが。旅行で訪れた私たちも入ることができます。一回り廻ってきました。



客室です。



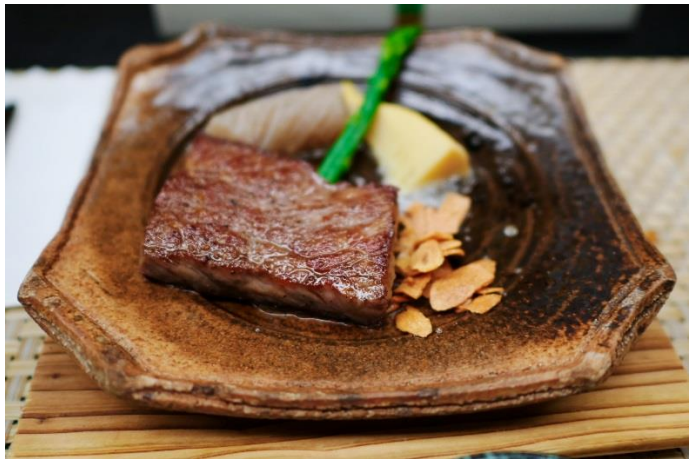
こちらは食事場所です。座椅子に仕立ててありますが、本番は身体に楽な畳に立ち椅子、立ち机にいたしますのでご安心下さい。



夕食です。山陰の美味しいものといったら一つは蟹を始めとする海鮮、もう一つは但馬牛と呼ばれるブランド牛肉です。蟹には季節がありますが、できる限りどちらも取り入れた夕食です。



煮物碗は「蟹泡雪饅頭薄葛仕立て」。



焼き物は但馬牛のロースのステーキです。



蟹と河豚の鍋。



揚げ物は季節の天ぷら。



ご飯類。

デザート「栃の実プリン」です。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

第2日目

行程	<p>ホテル⇒「境港 なかうら」(海産物のお買い物)⇒昼食「大根島 由志園」⇒</p> <p style="text-align: right;">足立美術館⇒玉造温泉「佳翠苑 皆美」(宿泊)</p>
----	--



井筒やさんの朝食、松花堂風和定食を食べて出発します。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

【 境港 大漁市場なかうら 】(鳥取県境港市竹内団地)



地元漫画家水木しげるのキャラクター「ゲゲゲの鬼太郎」が出迎えてくれる「大漁市場なかうら」は、中浦食品株式会社さんの経営する海産物のお土産販売スポットです。創業は貞享3年(1686年)ですから、334年の老舗、創業時は酒造業でした。大正10年(1921年)にお土産品の製造・販売業開始。お土産に関する食品なら、ほぼ何でもござれ状態です。



山陰はなんと言っても蟹です。年に何回も食べられるものではありませんが美味しい土地を旅行したと言うことでいかがでしょうか？魚も種類豊富です。ドグロが1尾1,000円ほどでした。お手軽なのは、



ボグロが入った蒲鉾です、500円でした。



地酒も豊富です。

【 大根島 由志園 】 昼食 （島根県松江市八束町波入）



「だいこんじま」とは読まないだろうと思って「おおねじま」と読んでいたのですが、信号機にローマ字で「だいこんじま」と書いてありました。島根県北部の海水と淡水が混じる汽水湖「中海」に浮かぶ島です。何故大根島と呼ぶのかについては諸説あるのですが、一説に島で栽培されている高麗人参が、昔は今以上に貴重で高価でしたから、「これは大根である。大根を栽培する大根島だ」と言って盗難を防いだというものがあります。



「由志園」さんはその島の名産品を作っているところです。高麗人参の標本。左から1年毎一番右の6年ものまで並んでいます。出雲で作っているので「雲州人参」と呼びます。



そして牡丹が大根島の2大産物です。こちらも由志園さんで栽培しています。牡丹は中国原産で唐の時代から大きくて豪華なので「花の王」と言われ愛されました。日本には薬として入ってきました。木本性のものを牡丹、草本性のものを芍薬と言いますが同じもので、どちらも学名はパエオニア、英語名はペオニーです。薬としてはペオノールと言う成分が消炎・止血・鎮痛に効用があるそうです。「六味地黄丸」や「八味丸」と言えばお使いになった方も多いいと思います。

大根島は小さな島ですがその中で高価な薬を栽培して生計を立てていたのだと分ります。



美しい日本庭園が有ります。島の女性達が島外に行商に行く苦労を見て、由志園の社長さんが「外から人が来てくれるようにすれば良い。」と一念発起して作り上げた庭園です。整備が行き届き見事です。



その庭園を見ながらお昼を頂きます。



籠八寸がかわいい昼食です。鍋は豆腐ではなく、雲州人参をすり込んで豆腐状に仕立てる由志園独特のレシピで、高麗人参豆腐鍋というものです。ちゃんと高麗人参の味がしました。



エビの右隣、棒状のものがここでしか食べられない高麗人参そのものの天ぷらです。身体に良さそうな気がします。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

《江島大橋》



大根島とお隣の江島を繋ぐ橋、「江島大橋」を通過します。2004年着工、工期7年。長さ1,446メートル、高さ44.7メートル、頂上は高くてちょっと恐いくらいです。5千トン級の船を通過させるためにどうしても必要で、この高さになりました。

ここは写真撮影スポットとしても有名でテレビ・コマーシャルに何度も登場しています。別名「ベタ踏み坂」、アクセルをいっぱい踏まないと登れないという意味です。

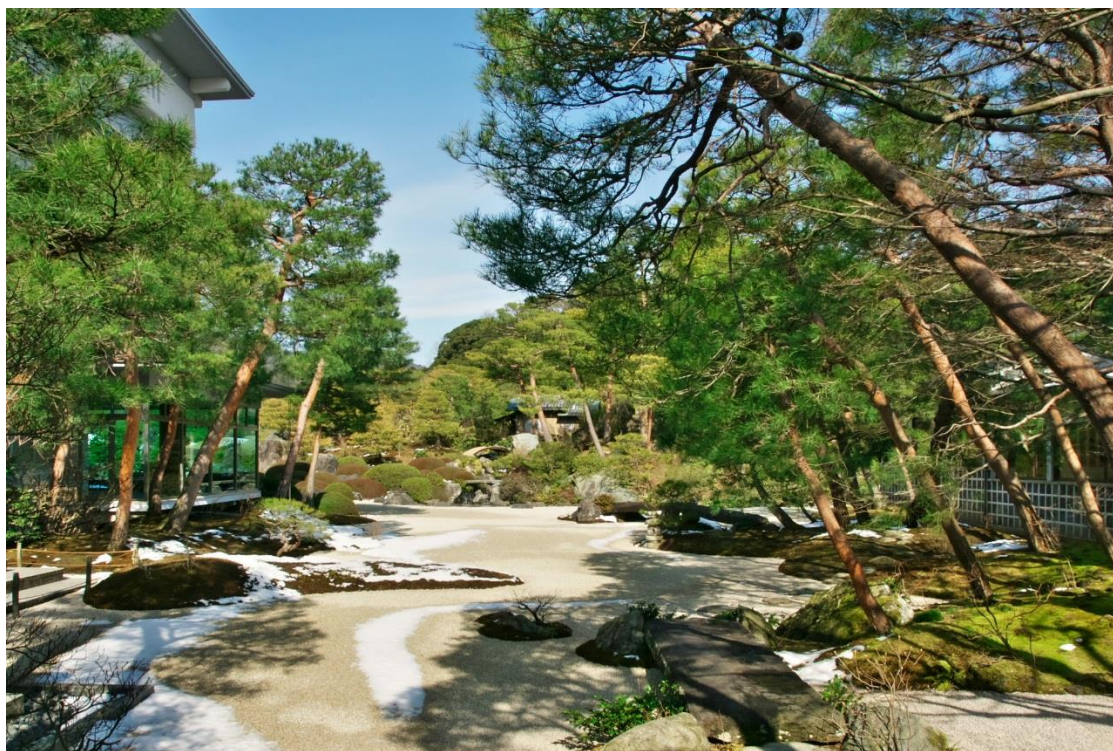
【 足立美術館 】（島根県安来市古川町）



（足立美術館入り口）

足立美術館は近代日本画を中心とした美術館です。二つの「日本一」を持っていて、一つは日本一の横山大観コレクション130点。もう一つはこれ以上の日本庭園は無いと言われる庭園の美しさです。島根県に有りながら外国人観光客を含めて年間来館者数約64万人(2017年)を誇ります。

※10/26 は足立美術館の新館のみが休館となります。



展示作品は写真に撮れませんので、庭の写真になりますが、ここは入っていくと最初に現れる「前庭」部分です。ここだけでも圧倒されます。また今年から順路としては最初の部分に北大路魯山人館が新設されます。



枯山水庭です。日本庭園の技法の一つですが遠くの山の景色を取り込んで借景しています。



「枯山水庭」と「白砂青松庭」の中間、中央に滝が見えますがこれは人工滝です。手前の木は額縁の役目を果たすべく故意に配置されている木で、設計者の意図がよく分ります。



池庭です。日本庭園の大切な要素の一つ、「水面」は欠かせません。

米国に「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング」という日本庭園専門誌があります。その「潮騒ランキング」という格付けでは、足立美術館が2003年ランキング開始以来17年連続ずっと1位です。仏ミシュランの「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」や「ギッドゥ・ブル・ジャポン」では最高の三つ星を獲得していて、世界から評価されているのが分ります。世界中にこれ以上は無い日本庭園ですね。そこに世界一があるのなら、是非とも見に行かなければなりません。

因みに柴又の帝釈天に近い山本亭は、「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング」で4位に入って健闘しています。



足立美術館のお土産、左は横山大観の作品の絵柄扇子、右は日本近代画家の模写。この他絵はがき等を売っています。

【 いずもまがたまの里 伝承館 】 (島根県松江市玉湯町玉造)



玉造の玉はまがたまの玉です。古墳時代の王族の装身具、勾玉を作っていたから玉造温泉という地名です。



ご希望の方は、こちらで蠟石や木などの柔らかい素材を使って自作を楽しむことができます。勿論本物の瑪瑙の勾玉も沢山売っています。

【 玉造温泉 「佳翠苑 皆美」 】 (島根県松江市玉湯町玉造)



日本旅館のお出迎えのスタイルが特に暖かく感じられました。



客室の様子です。



夕食は山陰の蟹と但馬牛をメインにしています。では始めましょう。



会場は畳に立ち机と立ち椅子で快適にお食事できます。



牛肉。



焼き物。



合鉢。デザートはグレープフルーツのゼリーでした。ご紹介したのは全部では無く一部です。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

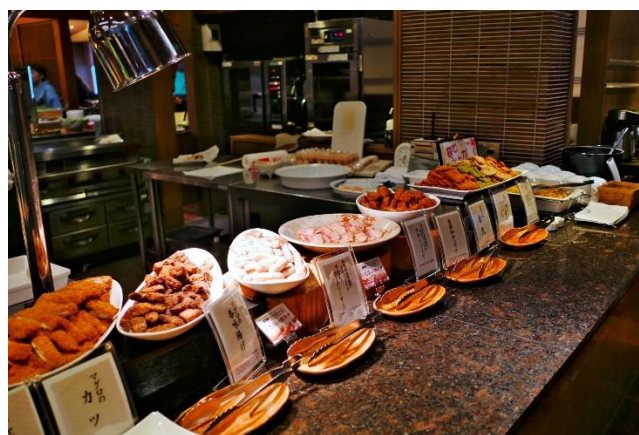
第3日目

行程

旅館⇒八重垣神社⇒「出雲大社」(昇殿参拝)⇒観光センター「いずも」⇒

看雲楼(昼食)⇒出雲縁結び空港⇒羽田空港

《朝食》



「佳翠苑 皆美」の朝食はビュッフェ形式です。和食も洋食も揃っておりますので、お好きな物をごゆっくりお選び下さい。



副菜も沢山の種類が用意されています。今回の旅行は和食が多いので洋朝食にしました。

【八重垣神社】（鳥取県松江市佐草町）



八重垣神社は須佐之男命が八岐大蛇を退治した後に櫛稲田姫と一緒に住んだ新婚の地と言うことで有名です。須佐之男命が「八雲立つ 出雲八重垣 妻込みに 八重垣造る 其の八重垣を」と詠んで家を作ったところです。それで写真のようにご夫婦でお参りに来る方が多く、また縁結びの神様として信仰篤い神社です。良縁占いをする場合は写真右の社務所で占いの用紙を買っておきます。写真左に進むと、



夫婦椿があります。この椿は資生堂が自社マークのモデルにしたことで知られています。右の道を更に進んで行きます。一旦道に出て、さらに奥の院境内に入ります。



進んでいくと、三角の形をした「鏡の池」に行き当たります。この池は櫛稲田姫が水をくみ、また自分の姿を写した
という言い伝えから「鏡の池」と呼ばれます。



良縁占いをする方は、この池で先ず紙を池に浮かせて中央の赤字の所に百円玉か十円玉を置き、念じますと紙に字が浮かび上がります。「神助により良縁さずかる。東と南吉。」と読めます。次に紙が沈むのが早いとお相手が現れるのが早く、遅いと時間が掛かる事になるそうです。また遠くに沈むとお相手は遠くにいて、近いところに沈むと近くにいるそうです。

八重垣神社は出雲大社とともに TBS の映画「砂時計」のロケ地になっています。

【 出雲大社 】 (島根県出雲市大社町杵築東)



出雲大社というこの拝殿が思い浮かびます。太いしめ縄が特徴的。左側に「大しゃもじ」も見えます。縁結びが御利益の一つ、若い世代は縁結びをお願いに来てこのしめ縄の下でお賽銭をしめ縄の下に向かって投げ、それが刺さったら願いが叶う、と言うような話を聞きます。前述の映画「砂時計」にも、そういうシーンがあります。



当然地元では困るらしく、写真では分かり難いですが網の目のネットが下部に張られていて硬貨が刺さらないようになっています。



旧暦10月11日から17日まで日本全国の八百万の神様が(田の神、家の神等の留守神を除く)集まる本殿。ですから他の国では神無月でも、出雲では神有月と言いますね。

また、古事記の国譲り神話の舞台でもあります。天照大神軍と大国主軍の大決戦の話ですが、華々しい戦いでは無く、次々と送られる天照大神軍の神様達は地上を覗いただけで逃げ帰ったり、裏切ったり、大国主の娘さんと結婚してしまったりと散々な状態です。一方の大国主は力が強く信頼されていて敵からも好かれている印象があります。どうするんだ天照大神軍、と思っていると最後に建御雷(たけみかづち)神が派遣され、天照大神の言葉を伝えることになります。「汝がうしはける葦原の中つ国は我が御子の知らず国ぞと言依さしたまひき。故、汝が心は奈何に。」さあ、けんかだと思った瞬間、大国主はこう言います。「僕(あ)は得白(えまを)さじ。」これほど意外な返事はありません。その真意は子供二人が決めるでしょうというものでした。結果は皆様ご存じの通り大国主は強大な自国を天照大神に譲ることになります。

そしてその代わり、「ただ僕(あ)が住所(すみか)をば、天つ神の御子の天津日継(あまつひつぎ)知らしめず、とだる天の御巢如(みすな)して、底つ石根(いわね)に宮柱ふとしり、高天の原に氷木(ひぎ)たかしりて治めたまはば、」という希望を出し、これこそが前ページの写真の出雲大社であるという神話です。



そしてそれは誰も古事記に書かれた神話にすぎないと思っていました。

ところが、これも皆様ご存じの通りこの絵にある柱の底部が出土したのです。書かれたとおり「底つ石根(いわね)に宮柱ふとしり、高天の原に氷木(ひぎ)たかしりて、」でした。現地に展示がありますのでご覧下さい。神話は神話だけでは無く、約束は果たされていたことになります。この神殿の記録は他の古文書にもあったのですが、古事記に合わせた記録として信じられていませんでした。



本殿前に出土した柱の位置が示されています。



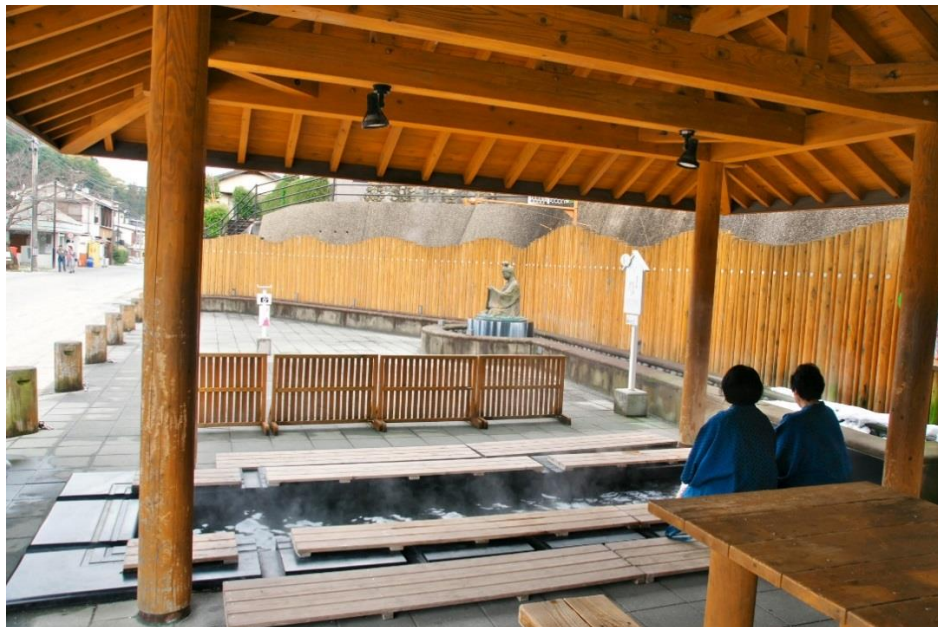
「大きな袋を肩にかけ 大黒様が来かかると そこに因幡の白ウサギ」と子供の頃に歌った唱歌のその場面、「因幡の白ウサギ」神話の像があります。話の順序が前後してしまいますが、八重垣神社新婚の話の直後、国譲りの前に出てくる神話です。



大国主の兄弟たち八十神が因幡の八上姫が美しいのを知り、結婚を迫ろうとして、自分たちの荷物を全て大国主に持たせて旅していた。大国主は苦勞して兄たちを追うがずっと遅れてついていくことになる。八十神が因幡に近づくとそこに鱈に皮を剥がされたウサギがおり、治療法を聞いてくるので海水を塗って山の上の風に当たれと騙す。ウサギは更に深い傷を負うが後から来る大国主は川に行き真水で身体を洗い、がまの穂で身を包んで直しなさいと教える。直ったウサギは大国主に「八上姫を得るのは八十神では無くあなたである」と告げる。これを知った八上姫は八十神の求めをことごとくはねつけ、「吾は汝等の言は聞かじ。大国主神に嫁(あ)はむ。」と言った。



というお話です。この後兄弟から仕返しがあったりするのですが、因幡の白ウサギの話は古事記にあって大国主が兄弟たちを差し置いて何故広く山陰地方を治めるようになったかの説明になっています。日本書紀本文には無く、一書つまり注釈部分に出てきますので、公的歴史である書紀では少し扱いが軽く、天皇家私家歴史書の性格がある古事記では重いのは、古事記著者が特に大国主の「徳」に感銘していることが伺われる逸話です。



(玉造温泉 足湯)



上の地図の赤丸付近を歩きます。次の昼食場所も同じです。

【 看雲楼 】 昼食 （島根県出雲市大社町杵築東）

※9/21 出発班、10/5 出発班、11/1 出発班は日本料理おかやへ変更となります。



「看雲楼」は「観光センターいずも」と同じお宮通りにある割烹です。出雲大社でバスを駐車する「出雲大社駐車場」とすぐ近くで、歩いても行ける距離です。



出雲はおそばの4大産地の一つだそうですので、それを取り入れた昼食を頂きます。

(食材は季節により変わりますので変更がある場合がございます。あらかじめご承知置き下さい。)

【 出雲縁結び空港⇒羽田空港 】

※10/20 復路は米子空港発へ変更となります。



復路は出雲縁結び空港から羽田空港へ。日本航空284便16:10発、羽田到着予定は17:25着予定です。羽田では富士山とツーショットになりました。航空会社は違いますが、機材は往路と同様にボーイング737-800の予定です。お疲れ様でした。ご自宅まで気をつけてお帰り下さい。

東京シティの国内旅行は、「良い宿・良いお湯・良い食事」を目指して毎年開催しております。

訪問地の有名店、有名旅館を厳選して質の高いご旅行を提供します。山陰の美味しいお食事もお楽しみ下さい。

皆様お誘い合わせの上、是非ご参加をお願いいたします。

《出発日について》 各店舗のご出発日は下記の通りです。

出発日	店舗名
9/20(水)～9/22(金)	日本橋支店、石神井支店
9/21(木)～9/23(土)	秋葉原支店、京橋支店
9/25(月)～9/27(水)	本店、中野支店

10/2(月)～10/4(水)	蔵前支店、野方支店、豪徳寺支店、志村支店
10/5(木)～10/7(土)	砂町支店、菊川支店、牛込柳町支店
10/9(月)～10/11(水)	東王子支店、浦安支店、玉川支店
10/18(水)～10/20(金)	深川支店、池袋本町支店、江戸川橋支店、新柴又支店
10/23(月)～10/25(水)	小山支店、堀切支店、赤羽支店
10/25(水)～10/27(金)	新小岩支店、高田馬場支店、神楽坂支店
11/1(水)～11/3(金)	押上支店、京成小岩支店、亀有支店、東四つ木支店

*ご出発日をご都合の悪い場合は、他店舗の出発日を選ぶこともできます。

募集人員 : 350 名(先着)

旅行代金 : 148,000 円(2名一室の場合)

*1名一室の場合の追加料金は 40,000 円です。

【 調査・調整 】

東京シティ信用金庫 地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



(調査・調整は2月で、積雪のため重装備でした。)

名鉄観光サービス(株)東京中央支店 支店長代理 東崎 英行



(春、秋はこのような仕度は必要ありません。)



<https://www.shinkin.co.jp/to-city/>